

2022年10月2日 午前礼拝

「神様の支配」

説教:大木英雄牧師

【メイン聖句】ヨハネ 9:3

イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」

【引用聖句】使徒 22:3~9

3. 「私はキリキヤのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで私たちの先祖の律法について厳粛な教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。
4. 私はこの道を迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです。
5. このことは、大祭司も、長老たちの全議会も証言してくれます。この人たちから、私は兄弟たちへあてた手紙までも受け取り、ダマスコへ向かって出発しました。そこにいる者たちを縛り上げ、エルサレムに連れて来て処罰するためでした。
6. ところが、旅を続けて、真昼ごろダマスコに近づいたとき、突然、天からまばゆい光が私の回りを照らしたのです。
7. 私は地に倒れ、『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか』という声を聞きました。
8. そこで私が答えて、『主よ。あなたはどなたですか』と言うと、その方は、『わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスだ』と言われました。
9. 私といっしょにいた者たちは、その光は見たのですが、私に語っている方の声は聞き分けられませんでした。

【説教要約】

使徒 22:3~5

3. 「私はキリキヤのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガマリエルのもとで私たちの先祖の律法について厳粛な教育を受け、今日の皆さんと同じように、神に対して熱心な者でした。
4. 私はこの道を迫害し、男も女も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです。
5. このことは、大祭司も、長老たちの全議会も証言してくれます。この人たちから、私は兄弟たちへあてた手紙までも受け取り、ダマスコへ向かって出発しました。そこにいる者たちを縛り上げ、エルサレムに連れて来て処罰するためでした。

パウロはまず自分の証をしています。私も滝山教会である成年女子から「九州にいるおじさんが危篤だから九州まで伝道に行つてほしい」と頼まれて九州まで行きました。私は初対面のおじさんに「どうやってキリストを伝えたらよいか」と祈っていたら、パウロは使徒 26 章で自分の証をしています。それを思い出し私も自分の証をしました。

そおしたらその叔父さんさんも自分の思い出を話してくれました。阿蘇山に行ったとき、ひどい豪雨に遭い雷もなりました。友達も皆、岩陰に隠れて、「神様助けてください」と祈っていました。そうすると伝道がしやすくなります。

使徒 22:6~8

6. ところが、旅を続けて、真昼ごろダマスコに近づいたとき、突然、天からまばゆい光が私の回りを照らしたのです。
7. 私は地に倒れ、『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか』という声を聞きました。
8. そこで私が答えて、『主よ。あなたはどなたですか』と言うと、その方は、『わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスだ』と言われました。

私たちはこのことは偶然起こったことではなく、神様が支配していることが解ります。私は今滝山教会で行われている伝道者塾に出ています。鄭先生は今 50 肩で右手が上がりません。「これは神様の支配による」と言われました。私は驚きましたが、

ヨハネ 9:1~3

1. またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。
2. 弟子たちは彼についてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」
3. イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」

生まれつきの盲人も偶然盲人になったわけではない。神様が支配されているのです。

出エジプト記 4:11

主は彼に仰せられた。「だれが人に口をつけたのか。だれがおしにしたり、耳しいにしたり、あるいは、目をあけたり、盲目にしたりするのか。それはこのわたし、主ではないか。」

私は滝山教会の伝道者塾に通っています。そこに出席している中国婦人のお子さんは、脳性麻痺のような病気です。人の話は大体わかるのですが、上手くしゃべることが出来ません。歩くこともできません。そのような方にも鄭先生は「神様の支配でそうなったのです」と教えています。

使徒 22:9

私といっしょにいた者たちは、その光は見たのですが、私に語っている方の声は聞き分けられませんでした。

これは特別にサウロに起こったことです。神様がパウロを支配されたのです。鄭先生のように 50 肩も、中国人の夫人のお子さんの脳性麻痺も「神様の支配による」と信じられたらなんと感謝なことではないでしょうか。

家内が滝山の夫人の火葬に花屋さんにお花を注文して、取りに行きました。花屋さんの中で車のエンジンを止めずに、花さんに花をもらいに行きました。花をもらって車に戻ろうとしたら車がバックしているのです。家内はあわててドアを開けてブレーキを踏んだつもりがアクセルを踏んだのです。今度は自分の力で車を止めようとしたのです。車は隣のお店屋さんの扉にぶつかって止まりました。扉に傷はなかったようです。

家内は自分の力で車を止めようとしたので力尽きて倒れました。救急車で病院へ運ばれて、レントゲンを撮ったらあばら骨にひびが入っていたそうです。家内の不注意と言えば不注意ですが、人身事故もなく、車も傷まず、神様が支配してくださったと感謝しています。

使徒 22:10,

私が、『主よ。私はどうしたらよいのでしょうか。』と尋ねると、主は私に、『起きて、ダマスコに行きなさい。あなたがするように決められていることはみな、そこで告げられる。』とされました。

私たちにとって一番難しい事は神様の導きを求めることです。『主よ。私はどうしたらよいのでしょうか。』と尋ねると、主は私に、『起きて、ダマスコに行きなさい。あなたがするように決められていることはみな、そこで告げられる。』とされました。

- (1) **主よ。私はどうしたらよいでしょうかと祈ることです。**
- (2) **『起きて、ダマスコに行きなさい。あなたがするように決められていることはみな、そこで告げられる。』とされました。御言葉が与えられます。**

私は主の導きを求めて祈ったことがあります。

「12人の里子を育てさせていただいた恵み」に書かせていただきましたが、私は名古屋学院高校で数学を教えていました。私は名古屋の守山に住んでいました。「瀬戸に1軒、職員住宅が空いたので、希望者は申し込んでください」という回覧板がまわってきました。

瀬戸から学校まで1時間もかかるので私は瀬戸にはいきたくなかったのです。しかし家内は家内の母から「家の近所に伝道しないように」と言われていましたので家から出たかったのです。たしかに「瀬戸に引っ越せば伝道できる、ぜひ申し込んで」ということで私は申し込みました。ところが13人が申し込んだのです。

家内はくじに当たった夢まで見てくじ引きの日を楽しみにしていました。私は数学の出来ない子供を集めて補習授業をやっていました。疲れて家に帰って来た時、家内から「今日くじ引きはどうだったの」と尋ねられました。「え！今日くじ引きの日だったの？」私はくじ引きの日を忘れていたのです、

家内は泣いて怒りました。「あなたはなんとひどい人なの、わたしがあれほど楽しみにしていたのにくじ引きを忘れるなんて」私もなんとひどい主人だと落ち込みました。くじ引きを忘れたので取り返しのつかないことをしてしまったのです。家内にいくら謝っても許してはくれません。

次の日、私は落ち込んで学校へ行きました、すると先生たちは「大木さんおめでとうございます」というのです。私はそんなにおめでたい人間か！「昨日12人がくじを引いて全部はずれで、大木さんの、くじが当たりくじだったんだよ」

そのようなわけで瀬戸へ引っ越しました。瀬戸の家から高等学校へ行く途中に瀬戸教会があったのです。私は名古屋のアッセンブリー信仰に行き詰まっていたので瀬戸教会でニール先生のみ言葉をつなげていくようなメッセージにとても恵まれました。

そして高校生をどんどん教会へ連れて行き、どんどん救われました。私は瀬戸教会に転会したいと思いました。私は名古屋のアッセンブリー教会で役員もやっていたので家内は「あなたは非常識だ」というのです。家内の言う通り私は非常識です。しかし信仰は命がけでやっているのです、非常識と言われようが何と言われようが変えることはできないのです。

そして1年目は、家内はアッセンブリーの教会へ行き、私はバプテスト教会へ行きました。2年目は、礼拝に2人そろってバプテスト教会へ行き、夕拝は二人そろってアッセンブリーの教会へ行きました。

そして2年目が終わろうとしたとき、家内がアッセンブリーの教会の近くにアパートを借りて来たのです。そして来年からはアッセンブリーの教会へ行くというのです。そんな時私は祈っていて御言葉が与えられました。

マタイ 6: 33,

だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。

キリストは私の罪の刑罰を身代わりに受けてくださいました。家内のためにも受けてくださいました。「キリストにゆだねれば間違いない」という信仰が与えられました。ですから家内が「アッセンブリーの教会の近くにアパートを借りてきた」と聞いても動揺しませんでした。

家内はニール先生には心を開いていませんでしたが、伝道師としてこられた浜谷先生には心を開いていました。家内は浜谷先生に相談しました。浜谷先生が「大木姉、何かしっかり握りしめているものがあるんじゃない」と言われて家内も聖書を読んで調べました。

家内に御言葉が与えられました。

ルカ 14:26~27

26. 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。

27. 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。

家内は自分の父や母を捨てることはできましたが、アッセンブリーの兄弟姉妹を捨てることが出来なかったのです。しかし「捨てなければキリストの弟子になることは出来ない」と神様に言われて、キリストの弟子になりたいのでアッセンブリーの兄弟姉妹を捨てることをアッセンブリー教会の牧師に泣きながら言いに行きました。

このことから教えられることは自分の思いを捨てなければ神様の御心を知ることは出来ないことを教えられました。神様は私たち一人一人を支配してくださっています。しかし多くの方は自分の考えで自分を支配しています。これでは神様は私たちを支配することが出来ないのです。

3歳か4歳の子供にバドミントンを教える時、親が子供の手を握りバドミントンをするとうまく行きます。しかし子供が大きくなり親と違う方向にバドミントンを動かすとうまく行かなくなります。神様と一緒にバドミントンをするとき神様が言われた通りに手を動かすとうまく行きます。しかし自分の考えでバドミントンを動かすとうまく行きません。

四国の今治教会の牧師をされていた榎本保郎先生という方がおられます。今治教会の礼拝出者席人数は約 500 人です。榎本先生はアシュラム運動に首を突っ込まれて一生懸命やり始められました。アシュラム運動の趣旨はみ言葉に従うことを第一とする運動です。

榎本先生が聖書を読んでいた時

マルコ 4:35~41

35. さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう」と言われた。
36. そこで弟子たちは、群集をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行った。
37. すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。
38. ところがイエスだけは、ともものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思わないのですか。」
39. イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。
40. イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことですか。」
41. 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

「さあ、向こう岸へ渡ろう」榎本先生には今治教会の牧師を止めてアシュラム運動に専念せよ。とイエス様から語られたというのです。今治教会におれば毎月のお給料がちゃんと入ってくる。「今治教会の牧師をやりながらアシュラム運動をやってください。」と今治教会の役員から留められる。しかし榎本保郎先生はイエス様のみ言葉に従おうとしたのです。神様の支配に従うためには自分の支配を捨てなければなりません。

創世記 2:17

しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

アダムとエバが善悪の知識の木からとって食べてから人間は神様の考えで自分を支配するのではなく、自分の考えで自分を支配するようになりました。このことによって神様の御心がわからなくなったのです。悔い改めて神様の支配に従うようにしましょう。

使徒 22:11~21

11. ところが、その光の輝きのために、私の目は何も見えなかったので、いっしょにいた者たちに手を引かれてダマスコに入りました。
12. すると、律法を重んじる敬虔な人で、そこに住むユダヤ人全体の間で評判の良いアナニヤという人が、
13. 私のところに来て、そばに立ち、『兄弟サウロ。見えるようになりなさい』と言いました。すると、そのとき、私はその人が見えるようになりました。
14. 彼はこう言いました。『私たちの父祖たちの神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口から御声を聞かせようとお定めになったのです。』
15. あなたはその方のために、すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですから。
16. さあ、なぜためらっているのですか。立ちなさい。その御名を呼んでバプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』
17. こうして私がエルサレムに帰り、宮で祈っていると、夢ごちちになり、
18. 主を見たのです。主は言われました。『急いで、早くエルサレムを離れなさい。人々がわたしについてのあなたのあかしを受け入れないからです。』
19. そこで私は答えました。『主よ。私がどの会堂でも、あなたの信者を牢に入れたり、むち打ったりしていたことを、彼らはよく知っています。』
20. また、あなたの証人ステパノの血が流されたとき、私もその場において、それに賛成し、彼を殺した者たちの着物の番をしていたのです。』
21. すると、主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く、異邦人に遣わす』と言われました。』

神様はパウロを支配しました。パウロは神様の御言葉に従って行動しました。パウロを支配された神様は私たちも支配してください。